

# 令和5年度ワーケーション研修 ～自ら体験して学ぶマネジメントと価値創造～

一般財団法人地域活性化センター  
企画・人材育成グループ  
副参事 村上 和也

## はじめに

一般財団法人地域活性化センター（以下「センター」という。）は、活力あふれ個性豊かな地域社会を実現するため、ひとづくり、まちづくりなどの地域社会活性化のための諸活動を支援し、地域振興の推進に寄与することを目的として、昭和60年10月に全国の地方公共団体と多くの民間企業が会員となって設立された財団法人で、平成25年4月に一般財団法人へ移行しました。

当センターでは、情報誌「地域づくり」による最新の地域づくりの情報提供、地方創生セミナーの実施など、地域の活性化に資する各種事業を実施している。また、地域づくりは人づくりからという理念のもと、多様な人材育成団体と連携協定を締結し、人材育成のノウハウを共有して相互の発展と地域社会への一層の貢献を目指している。令和4年4月には、公益財団法人えひめ地域活力創造センター及び愛媛県伊予市とそれぞれ連携協定を締結し、連携事業を実施してきた。

本稿では、その連携事業の1つで、公益財団法人えひめ地域活力創造センター

及び愛媛県伊予市と、令和5年度に新たに三者共催で実施した「ワーケーション研修」を紹介する。

## 研修の目的

ワーケーションとは、自身の生活圏から離れた地で、ゲストとホストという関係性ではなくパートナーとして価値創造の機会を互いに与え合う新しいワークスタイルである。多様な地域に滞在する機会が増えることで移住や関係人口創出につながることや、地域の稼ぐ力を高めて地域経済の好循環をもたらすことが期待できる。

本研修は、参加者がワーケーションを自ら体験しマネジメント等を学ぶほか、生活圏外の地域で働くことで多文化理解を深めるとともに、地域住民や全国から集まる受講者との交流を通して異なる価値観やノウハウに触れることで互いの創造性を高めることを目的としている。

## 研修の概要

全国の地方公共団体職員や民間企業、

地域おこし協力隊など12人にご参加いただいた。短期間で①学び②実践③アウトプットができるようにオンラインも活用し、ワーケーションを体験していただく時間を確保した。

まず、ワーケーションに関する認識を統一し、短期間のプログラムで理解を深められるように、一般社団法人日本ワーケーション協会特別顧問である箕浦龍一氏から「変わりゆく世界の中での「ワーケーション」の必然「地域、人、企業」とつてのそれぞれの「価値」とは？」についてオンラインで講義をいただいた。箕浦氏か

ら、そもそもワーケーションとは「旅行しながら行う価値創造活動」であること、大事なことは「人」、

「人づくり」であり、面白い人を1人見つけると、芋



集合写真(南予サイン)

# センター事例紹介

づる式で5人くらい現れることなどについて述べられた。  
次に、愛媛県伊予市と内子町を舞台に5日間の現地研修を行った。今回は全プログラムの中でも特に重要であったものを一部ご紹介したい。

## (1) グループワーク「価値創造思考への入門」

当センターフェロー・人材育成プロデューサーの前神有里氏を講師に招き、「価値創造思考への入門」をテーマにグループワークを行った。地域や自分の仕事の価値を高める働き方・生き方を実現するためのワークセッションのあり方についての理解を深められる機会となった。



グループワーク「価値創造思考への入門」

## (2) 講義「官民でつくるワークショップ」

一般社団法人えひめ暮らしネットワーク代表理事・えひめ移住コンシェルジュの板垣義男氏と同法人南予移住マネージャーの山口聡子氏を講師に招き、「官民でつくるワークショップ」をテーマに、愛媛県における民間企業向けのワークショップの事例を中心に講義いただいた。板垣氏、山口氏から、どのようなスタイルのワークショップでも「キーパーソン」の存在は

不可欠であり、「どんなコンテンツを作るか」よりも「誰とコンテンツを作るか」が大事だと述べられた。また、ワークショップの企画を作り込みすぎず、リラックスでき、それでいて冒険心をくすぐるような余白のある時間を提供することの重要性についても学んだ。

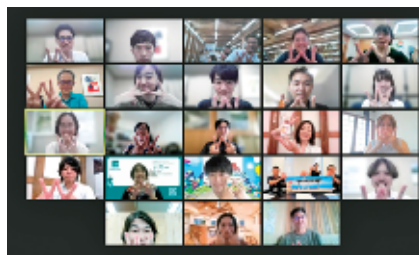


官民でつくるワークショップ

最後に、「ワークショップ研修後に変化したこと」をテーマに、仕事やプライベート、ワークショップのイメージなど、様々な分野で変化したことについての発表会を行った。ある参加者からは、「ワークショップ体験をきっかけに自分の働き方を見直し、家に帰るのが早くなり、家族との時間が増え、人生が豊かになった」と発表があった。講師の箕浦氏からは「自身で感じた付加価値はワークショップだけでなく、いろいろな施策につながっていく大きなヒントである」、前神氏からは「少し環境を変えるだけで、なぜなのだろう？ どうして？ に気づけたことが良かった」などの講評をいただいた。

## 終わりに

本研修では、自分が普段所属している組織から飛び出して、初めて会う方と接することで刺激を受け、新しい視点を得ることができた。ワークショップ実践者の視点としては、地域やプログラムのどこに魅力を感じるかを学び、ワークショップを受け入れる側としては、プログラムを過剰に詰め込まず自由な時間を設け、ワークショップ参加者と協力してプログラムを作り上げる重要性を学んだ。この経験を活かし、今後ワークショップを事業化する際には、ゼロ予算で失敗してもいいからまずはやってみる、という前向きな姿勢、つまり新しい価値を創り出そうとする姿勢が大切になる。今後は参加者の自律的・主体的な価値創造活動に注力したい。



事後発表会

## 〈研修開催日〉

- ・ 事前説明会 6月27日(火)
- ・ 現地研修 7月10日(月)～14日(金)
- ・ 事後発表会 8月22日(火)